一五年	一	九、〇〇〇	四里二分	二〇〇、五〇〇 二〇五、二五四	八一、六八〇	一九、八六五 三〇、六六一	四五、三三六

（池田町統計台帳大正一一年～一五年）

2　土讃北線（讃岐財田・阿波池田）の開通

昭和四年四月、讃岐財田（さいた）・阿波池田駅間（一九・八キロ）の鉄道開通により、池田町は高松と直接結びつくようになった。

土讃線（琴平・土佐山田）は、大正八年三月第一期線に追加され、一二月四日に高知県豊永において、土讃南線（土佐山田・東豊永）と土讃北線（琴平・東豊永）に分け、南線は一五年に起工し、以来南北両方面から工事が進められた。北線は大正一二年五月、琴平・讃岐財田間が開通し、猪鼻隧道（延長三、八四五メートル）の完成とともに、昭和四年四月、阿波池田まで開通した。この間箸蔵駅開業は昭和四年四月二八日で現在の坪尻（つぼじり）駅は同日、信号所として開設された（駅となったのは昭和二五年一月一〇日である）。猪鼻隧道の工費は八〇〇万円で、トンネル九か所工事中の死者一〇名、負傷者は二、〇〇〇名にのぼった。土讃北線の開通式は、昭和四年四月二八日、池田町で盛大に行われた。

この開通によって阿波池田駅は、徳島・高松・松山やがて高知を連絡する中心点として動き出した。

3　土讃線全線の開通

阿波池田から南下する北線は昭和六年九月一九日中西まで延び、この日三縄駅が開業した。土讃線の豊永までの延長については、当初の構想として、三縄駅より大字中西のトンネルをとおり漆川橋を経て大田（おおだ）、通称八幡裏を通過して大字大利込に続き、祖谷川を鉄橋で渡り大字川崎込に達し、山城町川口の対岸に至り、ここで吉野川に鉄橋を架設する予定であった。

ところが地盤調査に際し、漆川橋より大利込までの間は、地すべり地帯で地盤軟弱なため中止となり、漆川橋より大利込トンネルを抜く案も地盤が弱くして不能となり、漆川橋より鉄橋で山城谷村猫坊に渡すこととし、昭和一〇年一一月二八日、三縄・豊永間を開業し、土讃線が全通した。これより先、昭和九年三月三一日に阿波池田・川之江間に省営バスが開通した。同線は昭和八年一一月に省営バス運転計画ができるとともに徳島・愛媛両県が測量と設計を急ぎ、翌九年一月早々から工事に着手し、徳島県側の改良工事はわずか二か月余で完成した。こうして阿波池田駅は四国四県の連絡中継駅として脚光を浴びることになった。

土讃線の開通式典は昭和一〇年一一月二八日、高知市の高知高等小学校で関係三県一、五〇〇名が参集して盛大に挙行された。

池田町でも、土讃線全通、町制三十周年、商工会館落成を合わせて一一月二八日から一二月二日までの五日間、祝賀行事を実施した。その様子を『徳島毎日新聞』（昭和一〇・一一・一二、一二・一）は次のように報道した。

土讃線全通を織込む池田町制卅年廿八日から五日間あらゆる大祝賀絵巻

◇十一月二十八日鉄道開通当日は一諸芸大会＝商店訪問マラソン◇二十九日町制三十周年記念式挙行当日一諸芸大会、県下青年角力◇官民合同祝賀会（公会堂に於て）商工会（商工会館に於て）当日商店広告行列◇十二月一日会館落成式当日全国自転車競争◇同二日景品入餅投げ　右期間中全町踊次第、仮装行列造物競技、生花骨董武器、盆栽等の陳列

土讃線全通、町制卅周年、商工会館落成歓喜の三重奏池田町は数々の祝賀余興で沸き返る賑ひ

土讃線鉄道全通、町制施行三十周年、商工会館落成という数々の慶びを迎えた池田町は二十八日から五日間に亘って祝賀行事を繰拡げた、全町は小国旗を張り巡らせ要所には大アーチを造り町内各所に造物、生花、書簡、骨董、刀剣、盆栽を陳列し沸きかへる様な祝賀気分に大賑振を極めて居る、鉄道開通の二十八日は正午から多数の踊りは繰り出され之れに見物人が加はりて全町は人、人、人全く人の波である。一方商工会主催の商店訪問マラソンも此日に決行され三舟連中の諸芸大会は町の中心地点に於て演ぜられ其れに菊芳大勾当師が門下十数名の少女を引きつれ参加出演し更に盛況を加へ馬宮澄清、松浦澄村両氏の尺八合奏で糸の調べも師匠仕込みを遺憾なく発揮し萩田ハルミさんの千鳥の曲、守島サダエさんの楫枕、北條タケ子さんの小鳥の歌の如き大人も及ばざるあでやかな調べに聴衆をうならせ三舟連に於ては大山スミ子、多田智恵子さんの三番叟、北島悦子さんの中の太夫、森実信子さんの梅の春、武川ミヨ子さんのお姫様、今村クニ子さんの子守、天羽トキエさんの椀久、徳永カズ子さんの赤双、今城幸子さんの手習子、中吉ヨシコさんの夜巡り等特に観衆の目を惹き出来栄最も好く三舟師匠の苦心の結晶は認められ数々の祝賀余興中人気の中心となり一方青年団主催の青年角力大会は医家神社境内にて行なはれ青年団の熱心なる斡旋により選手は郡内各青年団より多数送られ予想以上の成績を見た、池田小学校並に愛児園、幼稚園は各先生に引率され手に手に小旗をもって全町を行列大に祝賀気分を揚げて第二日を終了、第三日の三十日は官民合同祝賀宴を公会堂に開催し昼間は商店広告行列並に仮装行列、夜は一般の提灯行列を行ふた、煙火は間断なく打揚げられ尚踊は全町に展開非常に盛況を示した。

また、この祝賀期間中の一二月二日、池田町公会堂で四国の町長会を開催し、九二か町長が参集した。

4　土讃線の開通と大川橋の架設

土讃線開通に伴って、三縄村大利から対岸の山城谷村下川名（しもかわみょう）に架設し祖谷口駅を新設することは、三縄村、大利・川崎地区及び出合地区、山城谷村下川名、東西祖谷山村の住民の悲願であった。

そこで昭和三年一二月、三縄村・西祖谷山村・東祖谷山村の各村会が祖谷口駅設定の決議をし、鉄道省並に岡山建設事務所に陳情書を提出し、以後たびたび陳情を繰り返した。鉄道省は、橋の完成を条件とし祖谷口駅の設置を許可した。赤川庄八を中心とする設置運動によって実現し、昭和一〇年土讃線開通の一四日前の一〇年一一月一五日に大川橋は竣工した（大川橋の項参照）。

5　土讃線の開通と池田町の発展策

土讃線開通に伴い池田町では、議員等で構成する池田町発展策協議会をたびたび開催した。『徳島毎日新聞』（昭和九・六・一九）は次のように報道している。

土讃南線開通に備ふる池田町の対策観光客誘引其他設備協議

三好郡池田町は鉄道の終点として又官公衙殊に専売局工場の所在地として地の利に恵まれ、あらゆる機関の設けられたるにより逐年発展の道程を歩み続けて来たが愈々工事中の土讃南線の開通が明十年八月に迫り同町将来の盛衰が運命づけられんとし町当局は勿論商工業者は朝夕開通後の池田町はどこへ行くかと憂慮するに至った其結果は一般より開通後に於ける対策を確立せよの声高く交通完備に伴ひ大打撃を蒙り昔日の船戸を想像し悲観する旅館、料理、飲食店と多少の楽観論者もあるが大体悲観説多く故に町当局の苦労亦一層多い訳である町当局では既に之れが対策についてはあらゆる調査研究を続けて来たものであるが今だ其の具体的方針の決定を見るに至って居ないが、さきに阿讃線の開通を見次いで愛媛

4　大川橋

土讃線祖谷口駅設置と関連して、川崎の酒造家、林業家の赤川庄八が個人で架設し経営した。

昭和一〇年土讃線が豊永まで延長された際、祖谷口駅を新設するとともに、三縄村大字大利を対岸山城町下川名との間に大川橋を架設して後背地の東西祖谷山の膨大な森林資源を集散する計画を立てた。工事費五八、〇〇〇円は個人支出としては大変なものであった。

この大川橋は橋を通るのに料金がいるというので有名であった。別名「賃取り橋」と呼ばれ親しまれてきた。一〇年一一月二八日に開通以後、三七年一二月二〇日、池田町へ寄付するまでの橋賃は下表のとおりである。

大川橋開通（『川崎校百年史』より）

橋賃の変動　（単位　銭）

	昭和10年11月	18年10月	21年3月	22年11月	23年10月	24年6月	自28年1月至38年
小人	1	2	5	20	30	50	1.00
大人	2	4	10	30	50	1.00	2.00
自転車	4	6	15	50	1.00	1.50	3.00
牛馬追手共	5	10	30	1.00	2.00	3.00	5.00
リヤカー			50			3.00	5.00
中小車	8	15	30	1.00	3.00	5.00	10.00
荷牛馬車	15	30	1.00	5.00	10.00	15.00	30.00
空車						10.00	
貨物自動車	20	50	2.00	10.00	30.00	40.00	80.00
自動車	20		1.00	10.00	30.00	40.00	80.00
乗合自動車						円	円
通勤者						30.00	40.00

（赤川家所蔵「大川橋に関する書類」）